

人間は、既定路線を選ばなくてもその時その時の課題や人との出会いに真摯に向き合えば必然的に最善の道を選んで生きていくということを、今回の2月の多職種連携を考える会「語ルシストの会」の定例会で実感したので紹介します。

今回の講師は、今井集一千氏（訪問看護ステーションすずり管理者&看護師）で「訪問看護ステーションすずり設立の経緯」というタイトルで話していただきました。

自身の経歴を話される中で、大阪の出身で高校を中退して、バイトをする中でサーフィンに出会い、サーフィンのメッカである宮崎でサーフィンをしたくて宮崎への移住を決断する、というチョット既定路線から外れる道を選ばれる。

宮崎に移住したけど生活の糧がなかったので5ヶ月ほどホームレス生活をしている時に青島ライフセーバーから手伝ってくれないかと声がかかった縁でライフセーバーとして救助という仕事をする中で、医療との連携が必要なことを知って、看護師という職業に興味を持ったことで、高校中退では看護師になれないので、県立東高校通信制課程に入学し卒業して、宮崎県立看護大学看護学部に入學される。

看護大卒業後、宮崎大学附属病院救命救急センターに勤められて、救命の最前線の現場で看護スキルやスタッフ同士の連携に伴うコミュニケーションの必要性を実感される。

その救命救急病棟の現場でサーフィンによる事故で救命病棟に入院された患者さんとの出会いによって、急性期治療が終わった後、患者さんが安心して自宅や施設に戻ることが出来るような支援をやりたいということで異動願を出して市立田野病院に勤務することになる。

病院に勤務する中で、様々な疾患や障がいを持ちながらも、住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活が送れるようになることを看護師の立場から支えることはできないかということで、訪問看護という仕事を知り、勤めるより自分で起業するという道を選ばれるという積極的な姿勢を持って、訪問看護ステーションを設立される。

現在、設立して2年が経ち訪問看護ステーションのモットーとして、「いつでも、どこでも、何でも」やります、ということを中心に利用者の生き辛さや苦勞や願いを傾聴し叶えるために最適で最善の支援を提供することをスタッフと共に目指して取り組んでいるということである。

近頃、報道によって訪問看護ステーションによる不正請求という事業者がいることで、真摯に取り組んでいる事業者にも影響を及ぼしかねないことを話す機会があり、利益優先で公的な報酬を不正・過剰に請求している事業所を管轄している行政機関がしっかり監視して、認可の取り消しなど厳しい指導をするか、事業所自体がコンプライアンスを徹底的に守る姿勢を打ち出して支持を得るか、利用者自身が利用する条件を提示して、その条件を満たしてくれる事業所を選ぶことで、より地域で自分らしく生きることを支えてもらえる同伴者としての訪問看護ステーションを選択すべき時代だと思える。

今回の訪問看護ステーションすずりの管理者の今井集一千氏の経歴や事例などを聞いていて、その時その時に会った人によって生きる目標を指し示してもらったことで、患者及び利用者を一人の人間として認めて対応することや、より適切で最善のケアサービスを地域で提供することを身を持って実践することをポリシーとしている姿に信頼すべき看護者であると思えたのである。

次回は、3月22日（金曜）で、時間は、19時から21時、  
場所は、県福祉総合センター1階ミーティングルームです。  
担当者及び内容に関しては、まだ決まっていますが、打診中で決まり次第案内します。